

口腔外科研修医マニュアル 腫瘍学用語集

腫瘍に関する用語

(1) 概論

悪性

malignancy[英]悪性 (関)mal-[英]不良、悪
悪性症候群、悪性貧血、悪性リンパ腫など、悪性と頭につく病気が結構ある。しかし、がんにとって悪性をつけているわけではないから、悪性をつく病気の原因がすべてがんというわけではない。その病気の原因が悪性ということによって名前をつけたケースが多く、病気の歴史を語っていることもある²⁹⁾。

悪性化

悪性腫瘍

アデノカルチノーマ

アメロ

一次癌

一塊切除

malignant transformation[英]

malignant tumor(マリグナント チューモア)[英]

adenocarcinoma[英]腺癌

ameloblastoma[英]エナメル上皮腫

primary cancer[英]原発癌

en bloc resection[独+英]癌組織にメスを入れない、触れないことを原則とするから、もし口腔癌でも舌、口唇、下顎歯肉癌などにおいて、所属リンパ節と原発腫瘍との連続性の疑われる場合、両者も一塊として切除する一塊切除が行われる。

エイジング

aging[英]加齢

癌の発生は年齢が進むにつれて増加する。日本の癌罹患のデータに基づいて推計すると、100歳まで生きた場合、男性の4分の3、女性の約半数が癌に罹患することになる³⁵⁾。

エン ブロック

オドントーマ

オステオサルコーマ

外方増殖性

活性酸素

en bloc[独]一塊 (として)

odontoma[英]歯牙腫

osteosarcoma[英]骨肉腫

exophytic[英]

active oxygen[英]呼吸により体内に取り入れられた酸素は、体中に運ばれエネルギーを生み出すが、その過程で活性酸素をつくる。これは電子が不安定な状態の酸素分子でフリーラジカルとよばれる。活性酸素は他の分子と化学結合しやすく、体内の不飽和脂肪酸と結合して過酸化脂質(lipid peroxide)をつくる。過酸化脂質はラジカルになりやすく、この物質が老化をはじめ、発がん、腎障害、動脈硬化、白内障などの異常を促進することがわかってきた。

カヘキシー

cachexia[英]悪液質 cancerous cachexia[英]癌性悪液質

全身の衰弱とるい瘦(emaciation)が著明な悪化状態。

カポジ肉腫

カルチ(Ca.)

Kaposi's sarcoma[英]

carcinoma[英]癌 Krebs[独]癌

平仮名の“がん”は白血病をも含めてすべての悪性腫瘍を意味し、漢字の癌は上皮性悪性腫瘍を表す(日本癌治療学会用語委員会)。

腫瘍は細胞の遺伝子の病気と理解され、正常細胞に環境因子が作用して発癌することがわかってきた。癌細胞は分裂をくり返して増殖し、塊をつくり固形腫瘍(solid tumor)となり、また、白血病のように液性(fluid tumor)の形を呈する。

◇ “Kampf dem Krebs. Krebs ist heilbar.” 「癌は治る。癌と闘え。」これは Wilhelm Konrad Ro"ntgen(1845-1923)の言葉²¹⁾。

カルチノーマインサイチュー

carcinoma in situ (CIS)[英]上皮内癌

(関)in situ(インサイチュー)[英]臓器や組織を生体から取り出さずにそれらの機能などを調べること。

がんもどき理論

近藤誠医師(慶応大学医学部放射線科講師)の著書である「患者よ、がんを闘うな」は、1996年に発売され45万部のベストセラーになり、癌の診断や治療をめぐる論争をまき起こした。近藤医師は、癌には転移する「本物のがん」と転移しない「がんもどき」があるという近藤仮説(がんもどき理論)を提唱している。

| | |
|------------|---|
| 口腔癌 | cancer of the oral cavity, oral cancer[英]悪性腫瘍全体からみると、口腔および咽頭部に発生したものは、ほぼその1-2%と推定される。頭頸部癌のうち口腔癌は30%を占める。 |
| 頸部郭清術 | radical neck dissection (RND)[英]根治的頸部郭清術 【Barbosa(1974)らの提案に準じた分類】 1) 部分頸部郭清 partial dissections ①リンパ節摘除 lymphadenectomy(例外的にのみ実施する) ②小郭清 minor dissection(フランスで多く行われ、原発巣に近いリンパ節の一塊切除で、喉頭癌などによく行われる) ③舌骨上頸部郭清 suprahyoid dissection(いわゆる部分郭清の典型である) ④舌骨下頸部郭清 infrahyoid dissection(舌骨上頸部郭清の実施済み症例において、その下方に頸部転移を起こした場合にとられる方法である) 2) 全頸部郭清 total dissections (略)トータルネック ①片側性全頸部郭清 unilateral total dissection ②両側性全頸部郭清 bilateral total dissection |
| 機能的頸部郭清術 | functional or conservative neck dissection[英]保存的頸部郭清術とも呼ばれる。胸鎖乳突筋、副神経および内頸静脈を保存する方法。 |
| 治療的頸部郭清術 | therapeutic RND[英]臨床的に頸部リンパ節へ転移をきたしていると思われる症例に対して施行される頸部郭清術。 |
| 予防的頸部郭清術 | prophylactic RND[英]明らかなリンパ節転移は認められないが、癌細胞の潜在性転移(microscopic metastasis)の可能性を考慮して行う頸部郭清術。 |
| 骨肉腫 | osteosarcoma[英] |
| サルコーマ | sarcoma[英]肉腫 |
| 進行癌 | advanced cancer[英] |
| スキルス胃癌 | scirrhous gastric cancer[英]びまん浸潤性胃癌 胃粘膜表面に現れず、内部で漿膜以下にまで進行する癌。このタイプの中でも胃体部領域のもの(狭義のスキルス胃癌)は特に早期発見が困難で、手術時のリンパ節転移率は90%以上、再発率も70%を超える。 ◇ 人気司会者の逸見政孝(いつみ まさたか)さんは、スキルス胃癌と診断された。三回目の手術は東京女子医大で行われ、約3kgの臓器を摘出するという13時間におよぶ大手術を受けた。しかし、最初の胃癌発見から1年足らずで亡くなった。逸見さんが受けた治療をめぐって各界で論争が起きた。 |
| セーフティ マージン | safety margin[英]安全域、安全幅 悪性腫瘍の手術に際し、病巣を確実に en bloc で切除することが最重要課題であり、部位、組織型、組織学的悪性度などにもよるが、可及的に1.5-2.0cmの安全域を確保して切除することが最優先される。サージカルマージンの項参照。 |
| 舌癌 | cancer of the tongue[英]舌癌は口腔癌の半数以上を占める。 |
| 前癌性病変 | precancerous lesion[英] |
| 潜在癌 | latent cancer[英]潜伏癌、不顕性癌 臨床的に何ら気づかれずに、剖検時あるいは剖検材料の組織学的検索によりはじめて発見される癌をいう。転移もないのが普通である。高齢者の前立腺や甲状腺に認められる微小癌(minute cancer)がこれにあたる。前立腺や甲状腺における潜伏癌の存在率は10%以上にものぼり、しかも年齢とともに上昇する。 |
| 腺様嚢胞癌 | adenoid cystic carcinoma[英] |
| 唾液腺腫瘍 | tumor of the salivary gland[英] |
| 多形性腺腫 | pleomorphic adenoma(プレオモルフィック アデノーマ)[英] |

多重癌

multiple primary cancer[英]多重癌とは、2個以上の異なる臓器に同時性、または異所性に原発性癌が発生した場合の呼称である。癌のできた順番に1次癌、2次癌、3次癌という場合もある。同一臓器にできる場合を多発癌、異なった臓器にできる場合を重複癌とよぶことが多い。また、最初の癌が発見されてから2つ目の癌が発見されるまでの期間によって1年(米国SEER*の定義では2カ月)以内に発見されたものを同時癌(synchronous cancer)、それ以上経って発見されたものを異時癌という。

*SEER:Surveillance Epidemiology and End Results

◇ 頭頸部癌症例は、第2癌を併発する率が少なくない。その経過中に症例の15-20%が多重癌を診断されている。第2癌の特徴は、その70%以上が食道、頭頸部、肺の範囲に発症することである。口腔・咽頭癌(消化器系)の症例は、1年以内に8-9%の症例において食道癌が診断されている⁴¹⁾。

[院内がん登録における多重がんの定義と取り扱い方](SEERによる)

・定義

1. 部位はICDの3桁を使用

(ただし、結腸、直腸、骨、結合組織、皮膚は4桁目までの使用も可)

2. 転移でない限り、対側臓器のがんは別個に扱う。

(ただし、同一組織の対側卵巣がんは単発)

3. 2カ月以内に診断されたものを同時性がんとして扱う。

・コード方法定義

1. 部位境界部に近くても単一病巣単一組織型のがん →単発
2. 単一病変、組織型多種の場合 →単発
3. 同一部位に2ヶ月以内に発生した同一組織型のがん →単発
4. 3の場合で2カ月以上経て転移再発でない場合 →重複
5. 同一部位同一組織型を有する多発病変 →単発
6. 異なった部位の同一組織型を有する多発病変 →重複
7. 同一部位の異なった組織型を有する多発病変 →重複
8. 異なった部位、異なった組織型の多発病変 →重複
9. 両側性のもので同一組織像の場合は病理医の判断
10. 乳腺のinfiltrating duct carcinomaとlobular carcinomaはそれぞれ原発とする →重複

多段階発癌

multiple-step (or multi-stage, multistep)

carcinogenesis[英]癌は、臨床的にも、病理学的にも、前癌病変から転移・浸潤能をもつ癌細胞へ多段階的に進行することが知られている。そして、それぞれの段階は細胞内に順次蓄積していく遺伝子異常に対応していると考えられている。このように遺伝子変化が蓄積して、段階的に腫瘍が発生・進展していくという考え方を多段階発癌説とよぶ³⁶⁾。

◇ 発がん物質の投与から腫瘍の発生まではいくつかの段階に分けることができる。まず最初はイニシエーション(initiation)と呼ばれる状態で、発がん物質の投与によって直接的に引き起こされる。イニシエーションは通常短期間に、不可逆的に、細胞のDNAに永続的な変化を与える。次のステップはプロモーション(promotion)と呼ばれ、イニシエーションを受けた組織や細胞がさらに刺激を受けて腫瘍が形成される過程である。プロモーションは通常可逆的で、このプロモーションが起こっている期間は、最初のがん細胞が出現するまでの長い潜伏期にあたる期間である。第3の段階はプログレッション(progression)と呼ばれ、がん細胞がだんだんとより悪性度の高い細胞へと変化していく過程である。

◇ 癌は年齢と深い関係がある。細胞の遺伝子が最初の損傷を受ける発癌イニシエーションの年齢を推定してみると、多くの癌で20歳から30歳代前半で起こっていると推定される。

ディスプラシー

dysplasia[英]異形成 Displasie[独]異形成

dys-[英]異常、困難

| | |
|---|--|
| 頭頸部腫瘍 | head and neck tumor, head and neck cancer[英] 頭頸部癌の臨床的な特徴として局在癌(stage I, II)の場合は手術、放射線治療などの局所治療により5年生存率は約50-90%を得ている。これがstage III, IVの進行癌となると5年生存率は0-50%に低下する。すなわち、進行癌においては局所治療の進歩にもかかわらず大部分の症例では原病がコントロールされていない。このうち約2/3は局所再発であり、これは今後の局所治療の進歩により生存率の改善が期待される。しかしながら残りの約1/3は遠隔転移である。加えて、臨床的に確認されるよりもはるかに高頻度に剖検において微小転移巣(micrometastasis)が発見される。 |
| トゥモール 二次癌 | tumor(チューモア)[英]腫瘍、腫瘍 Tumor(トゥモール)[独] secondary cancer[英]第二の別な癌 二次癌の原因は、元の癌同様の遺伝的要因や環境要因などのほか、抗癌剤や放射線などによる一次癌(primary cancer)に対する治療の影響など、多くの因子が絡み合っており、複雑である。そのでき方も、同一の原因による癌が時期をずらして複数できる場合や複数の癌がそれぞれ別個の原因によってできる場合など様々である ⁴⁴⁾ 。 |
| ネオプラズム “発癌の場”説 | neoplasm[英]異常新生物、(悪性)腫瘍 field cancerization[英]1953年にDanely P. Slaughterによって発表された説 ⁵⁵⁾ 。例えば、口腔、鼻咽頭などの頭頸部癌の場合、原発癌を切除した周辺組織や隣接した臓器に、新たに別の癌が生じることがよくみられる。これは、原発癌の周辺組織には、すでにいろいろな多段階発癌過程にある癌の芽が存在することを意味している。 |
| パピローマ ファイブローマ ヘマンジオーマ 放射線誘発癌 | papilloma[英]乳頭腫 fibroma[英]線維腫 hemangioma[英]血管腫 second cancer after radiation therapy[英]放射線被曝に起因したと考えられる悪性腫瘍は、一般に放射線誘発癌または放射線関連癌と呼ばれる。放射線治療がその誘因となったと考えられる癌で、基礎疾患が良性病変のときは放射線誘発癌と呼ばれるが、基礎疾患が悪性腫瘍の場合は二次癌として一括されることが多い。放射線照射に起因する二次癌のリスクは、5年生存例を母数とした場合、約0.3%と推定されている ⁴⁴⁾ 。 (関)radiation carcinogenesis[英]放射線発癌 |
| マイクロメタスタシス マス リージョン マリリン メタ メラノーマ 山極 勝三郎 | micrometastasis[英]微小転移 mass lesion[英]かたまりの病巣、大きな病巣という意味。 malignant lymphoma[英]悪性リンパ腫 (略)ML metastasis[英]遠隔転移 (略)meta. malignant melanoma[英]悪性黒色腫 Yamagiwa Katsusaburo(1863-1930)[和]長野県上田市出身。東京帝大医学部卒業後、ドイツに留学し、ウィルヒョウに師事した。帰国後、32才で東京帝大病理学教授になった。1915年8月、市川厚一とともに、タールを用いてウサギの耳に発癌させることに成功した。これが世界で最初の人工発癌である。「癌出来つ意気昂然と二歩三歩」はその時の句であり、癌研究者の間では有名な句となっている。 |
| ラッシュ | rush[英]殺到 腫瘍の増殖速度が著しく速い状態のことを“ラッシュにきている”と表現する。 |
| リカーランス 局所再発 転移性再発 リポーマ 良性腫瘍 OKK -oma onco- | recurrence[英]再発 (略)rec. Schub(シュープ)[独]再発 local recurrence[英] metastatic recurrence[英] lipoma[英]脂肪腫 benign tumor[英] Oberkieferkrebs[独]上顎癌 maxillary cancer[英] 腫瘍、腫瘍 腫瘍の意を表す接頭語 (例)oncogene[英]癌遺伝子 |

| | |
|----------------------|---|
| SCC | squamous cell carcinoma[英]扁平上皮癌 口腔粘膜に原発する悪性腫瘍は病理組織学的には扁平上皮癌が80%以上を占める。 |
| seed and soil theory | 植物の種(seed)はあちこちにまかれても相性のよい土壌(soil)=臓器でのみ芽が出て成長(転移)することができる。癌の転移する臓器に特異性があることは、種と土壌が合わないと芽が出ないように、癌細胞と臓器との間に何らかの相互作用があると考えられる。このメカニズムとしては、癌細胞と臓器が互いに相性良くくっつきあう(接着分子 adhesion molecule)という特性と、癌細胞を増やす因子(増殖因子 growth factor)がすでに臓器に存在するという可能性が考えられている。 |
| T D T | tumor-doubling time[英]腫瘍2倍時間 |
| T NM分類 | tumor, nodes and metastasis classification[英]癌の国際臨床病期分類 |
| (2) 治療効果 | 頭頸部がん治療効果判定基準(日本頭頸部腫瘍学会) ¹⁴⁾ |
| CR | complete response[英]著効 すべての病変が消失し、新病変の出現がない状態が4週間以上持続したもの。 |
| PR | partial response[英]有効 二方向測定可能病変の縮小率が50%以上、一方向測定可能病変の縮小率が30%以上または評価可能病変の改善が50%以上であり、かつ新病変の出現しない状態が4週間以上持続したもの。 |
| NC | no change[英]不変 二方向測定可能病変の縮小率が50%未満、一方向測定可能病変の縮小率が30%未満または評価可能病変の改善が50%未満で、それぞれの病変が25%未満の増大または増悪にとどまり、かつ新病変が出現しない状態が4週間以上持続したもの。 |
| PD | progressive disease[英]進行 測定可能病変が25%以上の増大または評価可能病変の25%以上の増悪、新病変の出現がある場合。 |

診断

| | |
|--------|---|
| 悪化 | impairment, deterioration[英] |
| アナムネ | anamnesis[英]問診 Anamnese(アナムネーゼ)[独]病歴、既往症 “病歴をとる(history taking)”内容は、大きく分けて①現病歴、②既往歴、③家族歴の3つになる。これら3つをまとめて、広い意味での既往歴(anamnesis)とよぶこともある。 ◇ ギリシャ語で“記憶をよみがえらせること”を意味するアナムネーシス anamnesis に由来し、これから転じて医学では過去の病気の思い出、すなわち“既往症、病歴”の意味に用いられる ³¹⁾ 。 |
| 医学的検査 | medical examination[英] |
| 疑い | suspicion[英]疑い (略)susp. |
| オンセット | onset[英]病気の発病日のこと |
| 家族歴 | family history (FH)[英] |
| カルテ | Karte[独]病歴カード |
| | medical history, medical record[英]病歴 |
| クリティカル | critical[英]危篤の、危機の |
| 経過 | progress[英] |
| 順調 | uneventful[英] |
| 入院中の経過 | hospital course[英] |
| 病気の経過 | progress of disease[英] |
| 結婚歴 | marital history (MH)[英] spouse[英]配偶者 |
| 現症 | present condition[英]現症の項参照。 |
| 現病歴 | present illness (PI)[英] |
| 誤診 | wrong diagnosis, misdiagnosis[英] |
| 再来 | revisit[英]同一診療機関における2回目以降の受診。 |

| | |
|----------|--|
| 時期 | stage[英] |
| システムレビュー | review of systems (ROS)[英]問診とは独立して、各臓器別に患者の最近の隠れた病歴を聴取すること。general system review としては、発熱、体重減少、盗汗、食欲などが含まれ、その他は臓器別の問診事項となる。 |
| 主訴 | chief complaint (CC)[英] |
| 紹介状 | letter of introduction[英] |
| 職歴 | occupational history (OH)[英] |
| 初診 | first medical examination[英] |
| 重篤な | serious[英] |
| 寿命 | life span[英] |
| 平均寿命 | average length of life, mean life[英] |
| 平均余命 | average expectation of life, mean life expectancy[英] |
| 余命 | life expectancy[英] |
| 診断 | diagnosis (Dx)[英] Diagnose (Diag)[独] |
| | 診断とは、他の疾患から1つの疾患を識別する技術と定義される。 |
| 理学的診断 | physical diagnosis[英] |
| 臨床診断 | clinical diagnosis[英] |
| 鑑別診断 | differential diagnosis[英] |
| 確定診断 | definite diagnosis[英] |
| 除外診断 | diagnosis by exclusion[英] |
| 病理診断 | pathological diagnosis[英] |
| 遺伝子診断 | gene diagnosis[英] |
| | 1997年9月1日現在で高度先進医療に承認されている遺伝子診断として、①造血器腫瘍のDNA診断②溶血性貧血症の病因解析ならびに遺伝子解析診断法③固形腫瘍のDNA診断④進行性筋ジストロフィーのDNA診断⑤性腺機能不全の早期診断法の5つがある。①は最も多くの施設(15施設)で認められている。これは白血病細胞中のキメラ遺伝子をPCR法で検出するものが大半を占めている。顕微鏡的には検出できない微量の残存病変の有無を調べるのが中心だが、遺伝子の異常から病態を解析することにも使われている。次に多いのが③で、6施設が承認されている。適応とされている固形腫瘍は胃癌や大腸癌、膵臓癌と様々だが、これも顕微鏡による病理検査では検出が不可能であった微量の腫瘍細胞をK-rasやp53などの腫瘍関連遺伝子の変異などから検出するのが主な目的である。腫瘍のリンパ節転移の有無の判定などに有効である。 |
| | ①と③については横浜市大附属病院でも認められている。 |
| 診断書 | medical certificate[英] |
| スクリーニング | screening[英]ふるい分け、選別 [(がん検診における)バイアス(bias)の存在] |
| | 1.length bias: 検診では、進行の早いがんよりも進展のゆっくりしたがんを発見しやすいのではないか。 |
| | 2.lead-time bias: 検診により、早期に発見された期間(lead-time)だけ生存率が延びるだけで、真の生命延長にはつながらないのではないか。 |
| | 3.self-selection bias: 検診を自発的に受ける人は、健康意識が高く、健康管理に十分な注意を払う人が多いのではないか。 |
| | 4.over-diagnosis bias: 早期に発見されたがんの中には、放置していても進行せず、がん死に至らない特殊ながんを含んでいるのではないか。 |
| 精密検査 | detailed examination[英] |
| 前駆症状 | prodrome[英] Prodomalsyptom[独] |
| 増悪 | exacerbation[英] |
| 退院記事 | discharge note, discharge summary[英] |
| 他科受診用紙 | consultation sheet[英] |
| 治癒 | cure, healing[英] |

| | |
|--|--|
| 転帰 | exitus(outcome)[英]疾病の経過の帰趨 (例)全快(permanent cure)、軽快(improvement)、不変(no change)、死亡(death)など |
| 難治性の フォローする 不定愁訴 | intractable[英] follow up(フォローアップ)[英]追跡調査、経過観察 unidentified complaints[英] ①主観的訴えである。 ②愁訴が多彩である。 ③他覚的所見に比し、不相応に自覚症状が強い。 ④愁訴の質的変化や数的変化がみられやすい(症候移動)。 |
| プラトー | plateau[英]平坦 臨床では、患者の症状や治療効果が変化なく同じ状態であることを意味する。 |
| ポリコン 問診 予後 可良 生命予後 不良 予約診療 ライフ イベント | poly complaint[英]訴えの多い患者さんのこと。 inquiry[英] prognosis[英]疾病の経過や転帰を予知すること。 favorable, good risk[英] vital prognosis[英] unfavorable, poor[英]回復の見込みのないこと。 consultation by appointment[英] life event[英]ライフ イベントとは心理学用語で、「人生上に起こる様々な出来事」を指す。配偶者の死などの不幸な体験により乳癌の発生率が高まることが報告されている(Chen CC et al. BMJ 311. 1527-1530. 1995)。 |

病理組織学的診断

(1) 概論

| | |
|-------------------------|--|
| インベーション 切り出し | invasion[英]細胞または病原菌の侵入 cutting[英]手術切除(摘出)組織より検査材料を採取することを“切り出し”と呼ぶ。 |
| ゲフリーール | Gefrierschnitt[独]凍結切片 Gefrierpräparat[独]凍結切片標本 frozen section[英]凍結切片(略)ゲフ(関)gefrieren[独]凍結する 術中迅速診断は凍結切片標本(frozen section technique)によってなされる。採取された組織は生のまま速やかに病理検査室へ提出され、“凍結切片作成→HE染色→鏡検→組織診の報告”の全過程が20-30分以内に行われる。 ◇生の組織を手術室から病理検査室へ送る際には、乾燥を避け生理食塩水を浸したガーゼで軽く包むかシャーレやビニール袋に入れる。 |
| 固定 | fixation[英]固定は組織や細胞の自家融解による腐敗をおさえて、生きていた状態になるべく近い状態の組織や細胞の種々の構造をとらえるために行う処理である。固定液の量は豊富に用い、通常、組織片の5-10倍の量を用いる。固定液は目的の染色法に適した固定液を選択する。一般的な固定液として中性緩衝ホルマリンが多く用いられる。迅速診断(ゲフリーールの項参照)では固定液を用いないので注意する。 |
| 細胞診 剥離細胞診 穿刺吸引細胞診 | cytological examination[英](関)Papanicolaou分類 exfoliative cytology[英] aspiration biopsy cytology(ABC), fine needle aspiration biopsy(FNAB)[英]21-23G(外径0.6-0.8mm程度)の細い針に10-20mlの注射筒を接続し、病巣を穿刺して吸引することにより細胞を採取するもの ²⁰⁾ 。 |

| | |
|--------------------------------------|---|
| サージカル マージン | surgical margin[英]外科的縁 surgical margin free of tumor[英]腫瘍のない外科的余地(外科的余裕) ◇ 外科治療後の病理組織学的所見で切除断端に癌が認められた症例(positive surgical margin)の予後は、認められなかったmargin freeの症例より局所制御率が低く、予後不良である ⁴¹⁾ 。 |
| 浸潤 ゼク | infiltration[英] Sektion[独]病理解剖 autopsy[英]剖検 (関)Leiche(ライヘ)[独]屍体 |
| 切開生検 | incisional biopsy[英]くさび状に腫瘍組織の一部を採取するもの ²⁰⁾ 。(同)open biopsy[英]開放性生検 |
| 切除生検 | excisional biopsy[英]腫瘍全部を摘除する生検 ²⁰⁾ 。 (同)摘出生検 (関)excision[英]切除 |
| 切片 バイオプシー | sections[英] Schnitten[独] biopsy[英]生組織検査、生検 ギリシャ語の bio(生命)+opsis(外見、様子)よりつくられた語で、“生きている組織の様子を見る”意である ³¹⁾ 。 |
| 薄切 | sectioning[英]切片をつくること。これを薄切という。これには19世紀後半にドイツで発明されたミクロトーム(microtome[英], Mikrotom[独])が用いられる(tomは切るという意味)。 |
| パソ | pathology(パソロジー)[英]①病理学②病理所見 医学用語として-pathyが付く言葉は、いずれも“病”を表す。 |
| 針生検 | pathogen[英]病原、病原体 pathogenesis[英]病因論 drill needle biopsy[英]組織内に針を刺入し組織の一部あるいは細胞を採取して組織診あるいは細胞診を行うことを針生検、吸引生検、吸引細胞診などという。狭義の針生検はSilverman 針やMenghini 針などの太い針(外径1.6-2.6mm)を用いて、円柱状の組織小片を採取し、組織診を行うものである ²⁰⁾ 。 |
| 病理(学的)所見 包埋(ほうまい) | pathological findings[英] embedding, imbedding[英]包埋剤を用いて組織片を薄切しやすい状態にする操作を包埋という。包埋剤には、非親水性・非水溶性のパラフィン、セロイジン、メタクリル樹脂、エポキシ樹脂、親水性・水溶性のカーボワックス、ゼラチンなどがある。パラフィン包埋法(embedding in paraffin)が最も一般的で常用されている。 |
| マクロ | macro[英]肉眼的所見 摘出した臓器についての病理医による肉眼的所見を指す。 |
| ミクロ プレパラート 剖検所見 ライヘ 連続切片 | micro[英]顕微鏡所見 Praeparat[独]標本 autopsy finding[英] Leiche[独]屍体 serial sections[英] Serienschnitten[独] 器官、小動物、胎児の全身などをミクロトームですきまなく一定の厚さに切り、順番の番号をつけたもの。 |
| H P F | high power field[英]顕微鏡の用語で、強拡大の一視野。 |
| (2)Y-K grade | 浸潤様式の細分類 (山本、小浜：1982, Jakobsson 分類：1973 を改訂) |
| 1 型 | 境界線が明瞭である |
| 2 型 | 境界線にやや乱れがある |
| 3 型 | 境界線は不明瞭で大小の腫瘍胞巣が散在 |
| 4 型 C* | 境界線は不明瞭で小さな腫瘍胞巣が索状に浸潤(索状型) |
| 4 型 D** | 境界線は不明瞭で腫瘍は胞巣を作らずび慢性に浸潤(び慢型) |
| | *C:cord-like type, **D:diffuse type |

| | |
|--------------|--|
| (3) 分化の程度 | diff. は differentiated の略 |
| 軽度 | slight[英] |
| 高度 | severe[英] |
| 未分化型 | undifferentiated[英] |
| 低分化型 | poorly diff. [英] |
| 中分化型 | moderately diff. [英] |
| 高分化型 | well diff. [英] |
| (4) パパニコロー分類 | Papanicolaou's examination (or smear, test) [英] Papanicolaou による細胞診断分類(1963) |
| Class I | Absence of atypical or abnormal cells 異型、異常細胞はない。 |
| Class II | Atypical cytology but no evidence of malignancy 異型細胞はあるが、悪性の証拠はない。 |
| Class III | Cytology suggestive of, but not conclusive for malignancy 悪性を示唆する細胞を認めるが、決定的ではない。 |
| Class IV | Cytology strongly suggestive of malignancy 悪性を強く示唆する細胞がある。 |
| Class V | Cytology conclusive for malignancy 決定的な悪性細胞がある。 |

治療方針

| | |
|-----------|--|
| 遺伝子治療 | gene therapy[英] |
| インオペ | inoperable[英]手術不可能の状態をいう。 |
| オペ | operation[英]手術 Operation(オペラチオン) [独] |
| オペレーター | operator[英]手術者 |
| 外来手術 | day surgery, ambulatory surgery[英]日帰り手術。朝、病院に行き手術を受け、夕方に帰宅する。欧米では、全手術の40-60%が日帰り手術で占められるとされている。 |
| 外来治療 | ambulatory treatment[英] |
| 拡大手術 | extended operation[英] 手術は“広汎切除”“摘出”“拡大”などから、“機能温存”“縮小”“形成”“臓器移植”“人工臓器”“内視鏡下手術”などへと進展し、“切除の外科”から“修復、温存、低侵襲の外科”へと展開しつつある。 |
| 外科的侵襲 | surgical stress[英] |
| 外科的療法 | surgical treatment[英]組織あるいは臓器を切離することによって、元来閉鎖されている体内に入り込み、種々の手技を用い、正常部分を含み病的な組織あるいは器官を除去し、また形態学的すなわち解剖学的構造を変化・修復させ、疾患あるいは形態異常の治療を図るものである。 |
| 救急手術 | first aid operation, emergency operation[英] |
| クリティカルパス | critical path[英]診療手順 クリティカルパスの直訳は「基本となる手順」である。care map(看護地図)などとも呼ばれる。クリティカルパスは、病気や治療法ごとに、治療や看護内容、日程の標準モデルを作り、少ない費用と日数で効果の高い医療を目指す方法である。アメリカで1980年代に開発された。 |
| コントラ | contraindication[英]禁忌(きんき)、適応のないこと。 患者や病気によって使えない薬や、できない処置のこと ²⁹⁾ 。 |
| コンプレケーション | complication[英]合併症 |
| 在宅治療 | domiciliary treatment[英]在宅医療の項参照。 |
| 集学療法 | multidisciplinary treatment[英]外科療法・放射線療法および抗癌化学療法・免疫療法・ホルモン内分泌剤療法のすべてを組み合わせ治療。 |
| 縮小手術 | limited operation[英] |

| | |
|----------|---|
| 術後 | postoperative (PO) [英] |
| 術後合併症 | postoperative complication [英] |
| 術後管理 | postoperative management [英] |
| 術後経過 | postoperative course [英] |
| 術後処置 | postoperative care [英] |
| 術前 | preoperative [英] |
| 術前評価 | preoperative evaluation [英] |
| 術前回診 | preoperative round [英] |
| 手術 | operation [英] |
| 手術危険度 | operative risk, surgical risk [英] homeostasis のための予備力が十分にあり、手術侵襲にも十分耐えられると判断できる場合は、surgical risk “good” の場合である。どこかに障害があり、手術前にそれを処置により正常にもちきたすことができない場合には、“fair”、さらには“poor” ということになる。そうした時には、手術の危険度が増す。 |
| 手術記録 | operative note, operation record [英] |
| 手術侵襲 | operative stress [英] 外科的侵襲により起こる生体反応は、①侵襲を受けた直後の emergency の時期には、循環系の homeostasis を保ち、生命の保全のためにエネルギーが使われる方向に働き、その後は②創傷の治癒と、③全身の homeostasis の保全の方向に反応が起こるものとみてよい。 |
| 手術を受ける | have (undergo, go through) an operation [英] |
| リオペ | reoperation [英] 再手術 |
| ストラテジー | strategy [英] 戦略 |
| セラピー | therapy [英] (病気の) 治療、療法 (薬を用いたり手術をしないもの) |
| アニマルセラピー | treatment [英] 治療 medical cure [英] 治療 animal therapy [英] 動物との交流による心理療法。 難病の子供が、最期の夢に、と選んだのがドルフィンスイムで、実際にその夢が叶ったときから、病気の進行が止まっているという。それはつまり、「イルカと泳ぎたい」と願う気持ちが自然治癒力を目覚めさせたのではないかと考えられる。 |
| アロマセラピー | aromatherapy [英] aromatherapie [仏] アロマセラピー アロマは芳香の意味であり、芳香療法と訳される。 |
| 安静療法 | rest treatment [英] |
| 運動療法 | exercise therapy [英] |
| 音楽療法 | music therapy [英] |
| 温熱療法 | hyperthermia, thermotherapy [英] |
| 化学療法 | chemotherapy [英] |
| 芸術療法 | art therapy [英] 俳句や短歌をつくる、絵を描く、歌を歌うなどが高齢者や災害の被災者の社会復帰に役立つと注目されている。 |
| 姑息療法 | palliative treatment [英] |
| 根治療法 | radical treatment [英] |
| 作業療法 | occupational therapy (OT) [英] |
| 精神療法 | psychotherapy [英] |
| 対症療法 | symptomatic therapy [英] |
| 超音波療法 | ultrasonic therapy [英] |
| 放射線療法 | radiotherapy [英] |
| 理学療法 | physical therapy (PT) [英] |
| 早期手術 | immediate operation, early operation [英] |
| 即日退院手術 | come-and-go surgery, in-and-out surgery, day surgery, same-day surgery [英] |
| 大手術 | major operation [英] (反) minor operation [英] 小手術 |
| たたく | 抗がん剤などで治療をするときに言うことが多い ²⁹⁾ 。 |

| | |
|-----------|---|
| 適応 | indication[英]疾患の治療を行うとき、それが局所的ならびに全身的病状に適合している場合を適応という。 |
| 絶対的適応 | 薬剤投与や手術などが病状の治癒に対しこの手段のみが必須条件であり、他の手段では成果が得られない場合をいう。 |
| 相対的適応 | 薬剤投与や手術などを行うことにより、病状の改善に役立つ場合をいう。 |
| ファーストチョイス | first choice[英]一次選択 |
| プレー | pre-[英]前 |
| ポスト | post-[英]後 |
| ラウンド | doctor's round of visit, doctor's rounds, routine round of a doctor's call on inpatients[英]回診 |
| 臨床術式 | clinical technique[英] |
| 臨床成績 | clinical performance[英] |
| T D T | tumor dormancy therapy[英]腫瘍と共存、共生しながら患者のQOLを維持して長期生存(long survival)を図るという考え方である。tumor dormancyとは、癌の原発巣や転移巣が増殖せず、長期間静止、縮小したままに維持され宿主に腫瘍負荷を与えずに経過する病態である。 |

化学療法

(1) 概論

| | |
|------------|--|
| 化学療法効果判定基準 | <p>口腔癌は腫瘍径の2方向の計測が正確に行えるため、その効果判定は固形癌化学療法直接効果判定基準が最適である。実際の縮小率の算定は、</p> $\text{縮小率}(\%) = \left(1 - \frac{\text{投与後の長径} \times \text{短径}}{\text{投与前の長径} \times \text{短径}}\right) \times 100$ <p>の式により行われ、その効果と4週以上の持続期間により、著効(CR)、有効(PR)、不変(NC)および増大(PD)に分類され、縮小率50%以上の症例(CR+PR)が、全体に占める割合を奏効率(OR=objective response:%)と称している³⁷⁾。</p> |
| クール | Kur[独]治療、治療単位 course[英] もとは治療、療養の意味であるが、治療期間を意味している。1回の治療で薬などを投与する期間のことをいう ²⁹⁾ 。 |
| ケモ | chemotherapy[英]化学療法 頭頸部扁平上皮癌は、in vitro 特に単層培養細胞のレベルでは、化学療法に非常によく反応する腫瘍である。bleomycin(BLM)、endoxan(EX)、methotrexate(MTX)、5-fluorouracil(5-FU)、adriamycin(ADM)、cisplatin(CDDP)などの薬剤に効果が認められている。 |
| 術後補助化学療法 | adjuvant chemotherapy (AC)[英]標準的治療の後施行して局所再発、遠隔転移を抑制することを主目的とする。(同)補助化学療法 |
| 術前補助化学療法 | neo-adjuvant chemotherapy (NAC)[英] (同)induction chemotherapy 導入化学療法とも呼ばれる。未治療例における放射線療法あるいは手術療法前に行う化学療法。neo-adjuvant chemotherapyという言葉は、Frei III(1982)によるものである。その目的は大きく①化学療法により腫瘍を減量(down staging)し、手術や放射線の局所療法の効果を増強すること、②微小転移巣の根絶による遠隔転移を防止すること、の2点が挙げられる。これによって治療成績(=生存率)の向上に寄与し、さらに器官温存、組織の最小限切除などにより形態と機能を保持することといえる ³⁷⁾ 。 |
| ハイドレーション | hydration[英]水和(作用) cisplatinの排泄は動物種によりその速度は異なるが、投与量の過半数が尿中に排泄される。腎に薬剤の集中が生じるため、腎障害を来しやすい。腎障害を回避するため、大量の水分補給や利尿剤の投与が行われている。これらの処置はcisplatinの薬理動態を大きくは変えないが、尿中プラチン濃度を有意に下げることができる ²⁵⁾ 。 |

(2) 抗癌剤

塩酸イリノテカン

irinotecan hydrochloride[英]塩酸イリノテカンは中国原産の植物「喜樹」から抽出されたカンプトテシンの誘導体で、抗癌活性を保持し毒性を減らす研究により得られた水溶性の化合物である。細胞分裂に必要な I 型トポイソメラーゼ阻害という新しい作用機序をもつ。1994 年 1 月に承認されている。副作用が強く、特に下痢と白血球減少は、予測が難しく治療困難な場合もあり、ときに致命的なものとなることがある。

抗(制)癌剤

(例)トポテシン^R(Topotecin^R)、カンプト^R(Campto^R)など。
anticancer drug[英]抗がん剤は、進行性のがんや再発がんを対象にした臨床試験で、約 20%以上の患者にがんの縮小効果が認められれば、副作用を考慮したうえで厚生省が薬として承認する。

タキソール^R

Taxol^R[商]一般名パクリタキセル(paclitaxel)。タキソイド製剤(taxoid preparation)の一つ。

タキソール製剤は、西洋イチイの成分から単離され開発された化合物で、細胞内で細胞分裂に重要な働きを示すチューブリンに作用してチューブリンの重合を促進し、安定な微小管を形成するとともに、微小管の脱重合を抑制することで、癌細胞の有糸分裂を停止させ抗腫瘍作用を表す。強力な抗悪性腫瘍作用を有すると期待されている。タキソール製剤にはパクリタキセルとドセタキセル(docetaxel)の 2 種類がある。前者は卵巣癌、後者は乳癌、非小細胞肺癌を適用としている。タキソールは、1997 年 12 月に薬価基準に収載された。

ブレオ

bleomycin (BLM)[英]ブレオマイシン (例)Bleo^R(ブレオ^R)
重篤な肺症状(肺線維症、間質性肺炎等)を呈し、致命的な経過をたどることなどがあり要注意(特にブレオ:60 歳・油性ブレオ:50 歳以上の高齢者、肺に基礎疾患のある患者)。

5-FU

5-fluorouracil[英]フルオロウラシル
1956 年、Duschinsky により合成されたピリミジン拮抗物質で、deoxyuridic acid から thymidilic acid へのメチル化を阻害して DNA 合成を抑制する。副作用は食欲不振、骨髄抑制などが見られる。抗ウイルス薬ソリブジン(ユースビル^R;Usevir^R)とフルオロウラシル系薬剤の併用で重篤な血液障害が発現し死亡に至った例の報告があり、併用禁忌。

CBDCA

carboplatin(カルボプラチン)[英] (略)カルボ
(例)Paraplatin^R(パラプラチン^R)
CBDCA は腎毒性軽減を目的とした CDDP の誘導体で、hydration を必要としない³⁷⁾。

CDDP

cisplatin(シスプラチン), cis-diaminedichloro-platinum[英]
(例)Randa^R(ランダ^R) (略)シス
CDDP は 1965 年より Rosenberg らの一連の研究によって開発された白金化合物の制癌剤である。頭頸部癌に対しては 1973 年、Lippman らにより臨床試験がなされて以来、その有効性が数多く報告されている。DNA 合成を選択的に阻害するとされる。副作用としては悪心嘔吐が高頻度に発生し、腎障害、骨髄抑制が見られるため、hydration および抗生物質 fosfomycin によりその軽減が図られている³⁷⁾。

CF療法
UFT

CDDP/5-FU therapy[英]CDDP・5-FU 併用療法
tegafur・uracil[英]テガフル・ウラシル
抗腫瘍効果はテガフルから徐々に変換されるフルオロウラシルに基づいている。

免疫療法・分化誘導療法

| | |
|------------------|--|
| アジュバント | adjuvant [英] 通常、アジュバントといわれるが、免疫賦活剤ともいわれることもある。抗原の免疫応答を非特異的に高め、抗体産生を増強する作用をもつ物質の意味で用いられる。アジュバント作用を示す物質としては、BCG 菌体のほか数種類のものが知られている。 ◇ adjuvant はラテン語で「助ける」の意の adjuvo に由来し、元来は補助剤を意味する。 |
| アポトーシス | apoptosis [英] 自死、遺伝子に支配された細胞死、プログラムされた細胞死 (programmed cell death) アポトーシスはギリシャ語で「秋に木の葉が枯れて落ちる状態」の意味である。細胞は、不要になったとき細胞が増えるのを防ぐシステムとして細胞の自殺機構を内在させている。癌抑制遺伝子 (tumor suppressor gene) の p53 がつくる p53 タンパク質が BAX (BCL2 associated X protein) というタンパク質を誘導し、さらにタンパク質分解酵素であるカスパーゼが誘導されて細胞を死に導く。生理的には胎生期の手指の分離や、生後胸腺細胞のアポトーシスが重要である。選択性が高く副作用が少ないと思われることから、癌細胞のアポトーシスを誘導するようながん治療方法の開発が研究されている。 ◇ アポトーシスでは、細胞はアポトーシス小体に断片化するだけで細胞の内容物が漏出しないため炎症反応はみられず、近隣の組織細胞は正常な状態を保ったままアポトーシス細胞だけが除去される。一方、ネクローシスの場合は、細胞の融解により流出した細胞の内容物にひかれて白血球が集まってくるため、組織の中ではその周辺に炎症反応が起こるのが特徴である。 ◇ ネクローシスは、情報が突発的に、しかも過剰に入ることによって、自死装置が発動する間もなく引き起こされる受動的な細胞死の過程といえる。つまり、ネクローシスは「遺伝子の支配を受けない細胞死」として定義することができる。 |
| 癌拒絶抗原 (癌)免疫療法 | tumor rejection antigen (TRA) [英] 腫瘍特異抗原または腫瘍関連抗原のうちで生体内でのがん細胞破壊反応に関与する抗原。 immunotherapy [英] 身体が本来もつ免疫能を高め、がん細胞を排除させるには、癌細胞だけがもつ特異抗原に対する免疫を利用する特異的免疫療法と、生体全体として抵抗力を高める非特異的免疫療法がある。特異的免疫療法はがん特異抗原の存在が必要で、メラノーマや腎癌で試みられた。非特異的免疫療法としては膀胱癌への BCG 投与などがあげられる。成長した癌や末期の癌を免疫療法で治すことはできず、術後や化学療法後の癌細胞がきわめて少ない状態に再発阻止や延期など、ある程度の効果が期待できる。 |
| 分化誘導療法 | differentiation induction, differentiation therapy [英] 細胞は幹細胞から分化し、成熟細胞となって生体内で一定の役割を果たす。そして寿命を終えた細胞はアポトーシスを起こして死ぬ運命にある。しかし、このコントロールからはずれて、ある分化段階でとどまって自律的な増殖を始めてしまったものが癌である。分化誘導療法とは、それらの癌細胞に働きかけて再び分化の過程に引き戻すことによって癌細胞に“自然死”をもたらせようとする療法である。 ◇ 1969 年市川博士はマウス骨髄性白血病細胞 M1 をマウス胎児細胞の conditioned medium で処理すると成熟顆粒球やマクロファージに分化することを発見した。これが、癌細胞の分化誘導を述べた最初の報告である。 |
| 丸山ワクチン | Maruyama vaccine [英] 日本医科大の名誉教授だった丸山千里博士が、結核患者に癌患者が少ないことに着目して開発した注射液。ヒト型結核菌青山 B 株から抽出されたアラビノマンナンを主体とする多糖体である。本剤の抗腫瘍効果がマスコミ的にけん伝され、日本医科大が中心になって 1981 年以來、有償治験が続けられている。1998 年 3 月現在、約 1 万 5 千人が投与を受けている。そ |

の後、コロニー刺激因子(CSF)産生能に着目し、放射線療法による白血球減少抑制薬として、丸山ワクチンの成分を約10倍に濃縮したアンサー20^R(Ancer 20^R;ゼリア新薬工業)の商品名で開発された。アンサー20は、現在、子宮頸癌にも効能を拡大するための治験が進んでいる。

| | |
|---------|---|
| 免疫学的監視 | immunological surveillance[英]免疫機構が発達した人体では、リンパ球のなかでT・B細胞が中心になった細胞性免疫が担癌個体になんらかの免疫反応を引き起こす。これを免疫学的監視という。生体の免疫応答能力が低下している場合には発癌しやすく、癌にかかった個体では免疫応答能力は低下している。 |
| レチノイド | retinoid[英]ビタミンAとその誘導体の総称。 ビタミンAの代謝産物であるレチノイン酸(retinoic acid)は、形態形成、細胞分化、増殖、視覚形成などに深く関与する重要な生理活性物質である。 |
| A T R A | all trans-retinoic acid[英]全trans-レチノイン酸 1988年上海のWang教授らが、24例のAPL(acute promyelocytic leukemia 急性前骨髄性白血病)患者にATRAを投与し23例(96%)にCRを得るという驚くべき効果を報告したのが最初の報告である。 |
| B C G | Bacillus Calmette-Gue'rin[英]ウシ型結核菌を13年間230代以上継代培養した結果、毒力が低下し、結核を発生させる能力を失った菌株。この菌に対して獲得された免疫はヒト型結核菌にも有効なことが確かめられ、結核予防ワクチンとして用いられている。BCGは細胞性免疫を高めるので、結核感染予防のほか、ある種の悪性腫瘍の免疫療法にも応用される。 |
| B R M | biological response modifier[英]生体応答調節薬、宿主免疫能変換法(変換物質) 薬剤が直接的に作用して、がん細胞や微生物の排除にはたらくのではなく、生体の細胞や活性成分の機能を調節することを介してはたらくものを総称する。 |
| OK-432 | Picibanil ^R (ピシバニール ^R)[商] ペニシリン・熱処理したA群溶血性レンサ球菌Su株の凍結乾燥製剤。1KEはA群3型Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末2.8mg、乾燥菌体として0.1mgに相当。 |

放射線療法

| | |
|----------------------|---|
| 外照射 | external irradiation[英]体外の放射線源から体表を經由して放射線を照射する方法。 |
| 姑息(対症的)照射 コバルト60 | palliative irradiation[英] telecobalt unit[英]コバルト60遠隔照射装置 テレコバルト装置とも呼ばれる。 ⁶⁰ Coから放出されるγ線(1.17, 1.33MeV)を50-80cmの距離から照射する装置である。Coの半減期が5.27年と比較的短いため、再三線源を取り替える必要がある、半影が大きい等の欠点があるが、エネルギーが頭頸部腫瘍の治療に適する。 |
| 根治照射 酸素効果 術後照射 | radical irradiation[英] oxygen effect[英] postoperative irradiation[英] 術後照射には2つの適応がある。 ①術後に放射線照射を施行した方が、統計的に局所再発やリンパ節転移が少ない場合。②手術による腫瘍切除が不十分で明らかに腫瘍が残った場合、残存部位に根治量の線量の照射を行う。 |
| 術前照射 | preoperative irradiation[英]術前照射の方法には、1週間以内に15-20Gyを与え、数日後手術を行う低線量短期照射と、5-6週間に50-60Gyを与え、手術までに2週間前後の期間をおく高線量長期分割照射およびその中間の2-4週間に30-40Gyを与え、1-2週間の期間をおく中間線量照射がある。 |

| | |
|------------|---|
| 術中照射 | intraoperative irradiation[英]手術により腫瘍を露出し、直視下に病巣に直接飛程の短い放射線を照射する方法。線源には高エネルギー電子線が用いられる。 |
| 治療比(治療可能比) | therapeutic ratio (TR) [英]腫瘍細胞が 80-90%死ぬ線量を腫瘍致死線量(tumor lethal dose)とし、正常組織の 5%に障害を発生する量を組織耐容線量(tissue tolerance dose)とする。両者の比を治療比といい、次式で表される。 治療比(T.R.) = $\frac{\text{正常組織の耐容線量}}{\text{腫瘍致死線量}}$ |
| 低酸素細胞 | hypoxic cell [英]酸素は腫瘍細胞の呼吸に用いられるためにその拡散しうる距離は限られている。毛細管から約 150 μ m までは酸素に富んでいるが、遠いところでは酸素は消費されてしまい腫瘍細胞は壊死に陥る。それらの中間に低酸素状態の細胞が 1 層か 2 層ある。この部分では酸素濃度は細胞が生きるには十分高いが、X線効果(酸素効果 oxygen effect)の点からは酸素分圧が低すぎる。この低酸素細胞は腫瘍細胞中に 10-20%存在するといわれ、放射線による腫瘍治癒率を制約する ⁴⁵⁾ 。 |
| ビルドアップ | build up [英]200KVp 程度の X 線では、線量最大点は表面にあるが、エネルギーが大きくなるに従って線量最大点は体内へ移動する。この現象をビルドアップという。 |
| 放射線感受性 | radiosensitivity [英] |
| 放射線口内炎 | radiation stomatitis [英] |
| 放射線骨壊死 | osteoradionecrosis [英] |
| 放射線骨髄炎 | radiation osteomyelitis [英] |
| 放射線宿酔 | radiation sickness [英]放射線治療を開始して 2-3 日後から、早い者では第 1 日目から食欲不振、悪心、嘔吐、下痢、全身倦怠を生ずることがある。 |
| 放射線増感剤 | radiosensitizer [英]併用することによって放射線の効果を増強する薬剤。 |
| 放射線抵抗性 | radioresistance [英] |
| ホットスポット | hot spot [英]放射線治療に際して、腫瘍全体に等しい線量を与えることが大切である。腫瘍内に線量の多い部分(hot spot)や少ない部分(cold spot)ができる場合、多い部分に適正線量を与えると cold spot の部分で線量が不足し、その部を治癒させることができない。 |
| 密封小線源 | 密封小線源とは外部汚染のないように放射性物質を容器に密封したもの。日常使用されているのは、 γ 線源である。線源を装着した患者は、シールドルーム(shield room)に隔離し、鉛で蔽ったシールドベッド(shield bed)に寝かせる。 ①ラジウム針(Ra 針)radium needle、ラジウム管(Ra 管)radium tube、セシウム針(Cs 針)・管、コバルト針(Co 針)・管、イリジウムなど ②金-198 粒子(¹⁹⁸ Au-grain)、ヨード-125 シード(¹²⁵ Iod seed) ③ストロンチウム-90 照射器(⁹⁰ Sr-irradiator) ④遠隔操作式後充填装置(remote afterloading radiotherapy system:RALS) ⑤高線量率 RALS 装置 |
| 密封小線源治療 | brachytherapy [英] ①外面照射またはモールド治療(mould treatment) : 表在性病巣の治療に用いる。術者の被曝が多い。 ②組織内照射(interstitial irradiation) : 病巣およびその周辺に直接小線源を刺入する方法で、セシウム針または Ra 針を刺入する。舌癌に最も多く使い 1 週間から 10 日間に 60-70Gy 与える。 ③腔内照射(intracavitary irradiation) : 膣腔、子宮腔、上顎洞、食道などの体腔内に管、針などを挿入して照射する方法。直接患部に挿入することは稀で、アプリーケーター(支持器)に入れて用いる。 |

| | |
|---|--|
| ライナック | linac[英]直線加速器(linear accelerator)の略語でリニアックとも呼ばれる。円筒状の加速管の中で、マイクロ波の進行波または定在波を用いて、熱電子を4-20MeVに加速する。そのまま電子線を取り出したり、ターゲットに当てると高エネルギーX線を発生させることができる。 |
| ラジエーション(Ra) | radiotherapy, radiation therapy[英]放射線療法 口腔粘膜の扁平上皮癌の場合、放射線単独による外部照射の場合、少なくとも50Gy(5,000rad)／5週の照射が必要である。 |
| 画像診断 | |
| アーチファクト | artifact[英]人工的産物 本来被検体にはないが、データ取得と画像再構成過程で発生する虚像である。 |
| アンジオグラフィー 陰影 陰影欠損 液面形成 横断像 オルソパントモグラフィ | angiography[英]血管造影法 shadow[英] filling defect (FD)[英] air-fluid level[英] axial CT (or MRI) image[英]軸位横断像 orthopantomography[英]断層撮影の原理を利用したパノラマ撮影の一方法である。撮影されたX線写真をorthopantomogram(オルソパントモグラム)という。(関)－gram[英]図 (例)orthopantomograph ^R (オルソパントモグラフ ^R) |
| 核医学 | nuclear medicine[英]アイソトープで標識した物質をトレーサ(追跡子)として、診断、治療、医学研究に応用する分野。 |
| カセット | Kassette[独]可視光や機械的損傷からX線フィルムを保護する目的で、撮影の際にフィルムを挿入する容器である。 |
| 画像診断 冠状断像 キャビティ | medical imaging, image diagnosis[英] coronal CT (or MRI) image[英]前額冠状断像 cavity[英]空洞。X-Pで肺に円形の透明な像が見える場合などに使う ²⁹⁾ 。 |
| 急現(きゅうげん) コイン リージョン | X線フィルムを至急現像すること ²⁹⁾ coin lesion[英]コイン状陰影、銭形陰影(せんけいいんえい) (同)円形陰影、結節状陰影 肺のmeta等でみられるX-P所見。最大直径4cm以下のものを銭形陰影、4cm以上のものを塊状陰影とよぶ。 |
| 骨折線 ジアログラフィー ジアログラム 歯科用X線フィルム 歯肉癌の骨吸収像 | fracture line[英] sialography[英]唾液腺造影法 sialogram[英]唾影像 dental X-ray film[英] 歯肉癌(carcinoma of the gingiva)の骨吸収像(bone resorption)には、浸潤型(permeated type)、虫喰型(moth-eaten type)、舟底型または皿状(pressure type)がある。X線所見には他に、浮遊歯(floating tooth, tooth standing in space)、スパイク状根(spiked root)などがある。 |
| シャウカステン シュルンペー | Schaukasten[独]X線フィルム読解板 viewbox[英]観察箱 Schrumpfen[独]縮む、収縮する、つぶれるの意味。肺のX-Pで肺の一部がつぶれているときに使うことがある ²⁹⁾ 。 |
| 浸潤状の骨吸収像 シンチ ガリウムシンチ テクネシウムシンチ 唾液腺シンチ | infiltrative bone resorption[英] scintigram[英]シンチグラム ⁶⁷ Ga scintigraphy[英]腫瘍シンチグラフィ(悪性腫瘍に比較的集積する) ^{99m} Tc scintigraphy[英]骨シンチグラフィ(骨反応の盛んなところに集まる) ^{99m} TcO ₄ ⁻ scintigraphy[英]唾液腺シンチグラフィ ^{99m} TcO ₄ ⁻ (パーテクネート)約200MBq静注5-10分後にガンマカメラにて正面像、左右の側面像を撮影する方法。 |
| 石灰化 スライス 造影剤 | calcification[英]X線不透過性(radiopacity)を示す。 slice[英]①切片、②CTやMRIの1カット。 contrast medium[英] |

| | |
|-------------|--|
| 造影CT | contrast enhanced CT[英]造影剤投与後にCT撮影を行う方法。 ◇ 前処置として絶飲食とする。 |
| 超音波検査 | ultrasonic examination (US)[英] |
| カラードップラー法 | color dopplor ultrasound (or sonography, ultrasonography)[英]血流の方向や流速などの情報を断層エコー図上に重ねて表示することができ、腫瘍などの組織内の血流の検討も可能となっている。一般には血流方向は赤と青で(プローブに近づくものは赤色系、遠ざかるものは青色系)、血流の大きさは輝度で(早い血流ほど明るく)、また血流のばらつきの度合は緑色を混ぜることで表している(乱流では緑の色調が強くなる)。 |
| 超音波ドップラー法 | ultrasonic doppler flowmeter[英]ドップラー効果を応用して血管内の血流を非侵襲的に計測することができる検査法である。連続波ドプラ法、パルスドプラ法、カラードプラ法がある。 |
| 頭頸部画像診断 | head and neck imaging[英] |
| トモ | tomography[英]断層撮影法 |
| トレーサ | tracer[英]追跡子 放射性元素を非放射性元素の挙動を追跡する指示物質として使う方法。 |
| 内視鏡検査 | endoscopy[英] |
| 鉛エプロン | lead apron[英] |
| プローブ | probe[英]探触子 超音波検査装置において、生体に密着させて超音波を発信し、生体からもどってくる反射波であるエコーを受診する部分。 |
| ヘリカルCT | helical CT[英]CTの一種で、被験者に対してX線管球がらせん状に連続回転して投影データを収集する方法。通常のCTに比較して短時間に分解能の優れた三次元画像を得ることができる。 |
| 放射線 | radiation[英] |
| 放射線学的診断 | radiological diagnosis[英] |
| レ線 | X-ray examination[英]X線検査 (注)当科ではレ線とはいわない。 |
| 10-day rule | 妊娠可能な女性に対し放射線診断を行う場合には、問診によって月経周期を確かめ、妊娠の可能性のない時期を選ぶ。 |
| C P A | costophrenic angle[英]肋骨横隔膜角 |
| C R | Fuji computed radiography (FCR)[英]輝尽性蛍光体をX線フィルムの代わりに用いて従来のX線撮影装置で撮影する方法。日本の富士フィルムが最初に開発したので、FCRと呼ぶが、現在ではCRと呼ばれることが多い。 |
| C T | computed tomography[英]コンピュータ断層撮影法 画像は微小な画素(ピクセル pixel)からなるマトリックス(matrix)上に再構成される。さらに各ピクセルに断層厚を乗じた単位体積(ボクセル voxel)に含まれる平均X線吸収値の大小に応じて白黒濃淡のある画像として表示される。ボクセル内のX線吸収値を表す単位として、水を0、空気を-1000とした相対的なCT値が用いられている。CT値はCTの開発者であるHounsfield博士の名をとりHounsfield Unit(HU)とも呼ばれている。 ◇ X線CTでは、X線の透過の悪いところを白く(high density)、透過性の良いところを黒く(low density)表示するが、MRIでは、放出される電磁信号の強いところを白く(高信号, high intensity)、弱いところを黒く(低信号, low intensity)表示する。 ◇ 腹部を撮影するときには、前処置として絶食とする(消化管の蠕動を少なくする、胆嚢を収縮させない)。 |
| C T R | cardiothoracic ratio[英]心胸郭比、心胸郭係数 CTRが50%以上は心拡大を示す。 |
| I V A | interventional angiography[英]血管内に挿入したカテーテルを用いて、血管そのものを、あるいは血管を介して病変部に到達し、これを治療する方法。 |

| | |
|------------------------|---|
| I V R | interventional radiology[英]画像診断技術を応用して、病変部に経皮的に接近または到達し、各種疾患の治療や病理組織生検などを行おうとするもの。 |
| MR I | magnetic resonance imaging[英]磁気共鳴画像法 生体には水のほかにも ¹ Hを含む分子は数多く存在するが、実際に信号として画像構成に参画するのは水と中性脂肪のみと考えてよい。それは、その他の分子のT ₂ があまりに短すぎて信号を受信する前に減衰してしまう(蛋白質のような高分子の場合)か、密度が低すぎて信号を雑音と区別できない(ビタミンなど微量な物質)のためである。したがって、脂肪組織を除けば、MRIは水からの信号を画像化しているといえる。 ¹ H原子核のきわめて少ない、強い石灰巣、骨皮質、空気(肺)などはほぼ無信号である。脂肪はT1値が短くT2値が長い。くり返し時間(TR)とエコー時間(TE)との関係により、いくつかの強調画像が構成される。 |
| 縦緩和時間(T ₁) | T ₁ はMRI信号の回復能力の指標。T1が長いほど信号は弱い。T1WはT1強調画像の意。一般にT1強調画像としてはTR200-600ms(短いTR)、TE10-30ms(短いTE)が選ばれる。 |
| 横緩和時間(T ₂) | T ₂ はMRI信号の持続能力を示す。T2が長いほど信号は強い。T2WはT2強調画像の意。一般にT2強調画像としてはTR1800-3000ms(長いTR)、TE80-120ms(長いTE)が選ばれる。 |
| プロトン密度強調 | TR1800-3000ms(長いTR)、TE30ms程度(短いTE)が選ばれる。 |
| R I | radioisotope[英]放射性同位元素 |
| T A E | transcatheter arterial embolization[英]経カテーテル動脈塞栓術 経皮的血管カテーテルを用いて異常な血管ルート、血管の破綻(出血)、腫瘍の栄養血管などを塞ぐ方法。 |
| U C G | ultrasonic cardiogram[英]心エコー図 |
| upper G. I. | ultrasound cardiography[英]超音波心臓検査法 |
| U S | upper gastrointestinal series[英]上部消化管造影 |
| X線検査 | ultra sonic[英]超音波エコー検査 (略)エコー |
| X線所見 | X-ray examination[英] |
| X線写真 | X-ray findings[英] |
| X線像 | X-ray photograph[英] (略)X-P, Xp |
| X線透過性、X線透過像 | radiologic image[英] |
| X線不透過性 | radiolucency[英] |
| X線不透過像 | radiopacity[英] |

その他

| | |
|-----------|--|
| エンボリ | embolization(エンボリゼーション)[英]塞栓術 |
| 温熱療法 | hyperthermia(ハイパーサーミア)[英] 癌の温度を人為的に上昇させることにより、癌の制御を目指す治療法である。通常放射線あるいは制癌剤と併用される。全身ハイパーサーミアでは全身温を41.5-42℃にして2-10時間保ち、1-2週おきに2-5回加温するものであり、加温方法としてはワックス浴、温水浴、体外循環による血液加温がある。局所ハイパーサーミアは温水灌流、超音波、あるいはマイクロ波(MW;300MHz-30GHz)、高周波(RF;300MHz以下)などの電磁波を用いて癌を局所的に42-44℃、40-60分間、週1-2回の間隔で計5-10回加温する治療である ¹⁸⁾ 。 ◇ 熱を加えて腫瘍を治療する記述の古くは紀元前にまで溯るが、科学的記載としては、1866年ドイツのBuschの丹毒感染による高熱で顔面の肉腫が消失したとの報告に始まる ³⁷⁾ 。 |
| ホリスティック医療 | holistic medicine[英]全人的医療、全人医療 西洋医学だけに頼らず、東洋医学や民間療法、心理療法など患者にとって効果があると思われる治療はすべて取り入れ、体、心、環境など患者をとりまく生活の全体から病気を治そうというもの。holisticはギリシャ語のHolos(ホロス)、全体という意味が語源。 |

これから派生した言葉にヘルス(健康)やヒール(いやす)などがある。

1999. 5. 31

2023. 6. 4 (抄) 露木良治